

## 公開講義

# The Art of Hatred: The «Noble Wrath» and Violence in Soviet Wartime Culture

## 憎しみの芸術—第二次大戦時のソ連文化における「高貴なる憤怒」と暴力



ソ連期、とりわけスターリン体制下の文化は、しばしば画一的な体制礼賛の作品ばかりが作られていたという先入観をもたれがちですが、実際にはその時々々の状況の影響下に変容を重ねてきました。たとえば1930年代の「社会主義リアリズム時代」には、むしろユートピア的でエンターテインメント性に富み、身体性を消去したウエルメイドな作品が人気を博していましたが、その雰囲気は第二次大戦（独ソ戦）期には一掃され、「敵」の残虐な暴力性を生々しく表現する作品が数多く



作られています。旧ソ連の出身で、世界的に著名なソ連文化研究者エフゲーニー・ドブレニコ氏が、日本ではあまり知られていない独ソ戦期のソ連文学や言説、映画やポスターを紹介し、戦時下のソ連文化の戦争表象とそのメカニズムを考察します。

← ↑ 映画『ソーヤ』（1944）から

### 【講師紹介】エフゲーニー・ドブレニコ（Евгений Добренко / Evgenii Dobrenko）先生

旧ソ連ウクライナ共和国オデッサ大学卒。母校やモスクワのロシア国立人文大学で教鞭をとった後に出国し、デューク大学、スタンフォード大学、ハッティンガム大学など米国、英国の大学でソ連文化の研究と教育に携わる。現在はシェフィールド大学ロシア・スラブ文化研究科教授。『国家的読者の創造』、『国家的作家の創造』、『疎外の美学—初期ソヴィエト文化理論』、『スターリン主義の映画と歴史の製造』他、英語とロシア語の著書多数。ソ連文化の実証的な研究で世界的に知られている。本年12月まで北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター特任教授(外国人招へい教員)として日本に滞在中。



2019年11月1日(金) 18時15分—20時30分



京都大学文学研究科(文学部校舎)

2階 第4講義室

聴講無料・予約不要

使用言語: 英語(報告概要当日配付、  
質疑応答は日本語・ロシア語も可)

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、京都大学文学研究科スラブ語学スラブ文学専修 共催

問い合わせ先 [nakamura.tadashi.6r@kyoto-u.ac.jp](mailto:nakamura.tadashi.6r@kyoto-u.ac.jp)